Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.2(2018 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

『NHK スペシャル
神秘の巨大ネットワーク　人体１』
NHK スペシャル「人体」取材班・編

最新の医学では、「人体はネットワークで、さまざまな臓器は互いに情報をやりとりし、人体を運営している」ということが分かってきました。ここから、例えば新しいガンの検査方法ができました。臓器から臓器への伝達物質が血液中で運ばれているからです。これまではガンは個別の臓器（例えば胃がんなら胃、肺がんなら肺・・）を調べるしかありませんでしたが、今や血液検査だけで１３種のガンが検査できるようになってきています。

『天皇は本当にただの象徴に堕ちたのか』　竹田恒泰

筆者は明治天皇の玄孫（やしゃご）に当たる有名人で、テレビでちょっと軽口をたたくこともありますが、今回の本は本気度満点の憲法に関する労作です！

ほとんどの憲法学者が肯定しているとされる「八月革命説」。これは、終戦後に日本に革命がおこり、天皇の地位が変更されたという説ですが、筆者は綿密な調査と論理でこの説に真っ向から反論しています。

『行動経済学まんが　ヘンテコノミクス』　佐藤雅彦・菅俊一ほか

あなたはどちらの製品を買いたいですか。①「従来の製品の 90%の油分を使用！」②「従来の製品の 10%の油分をカット！」もちろん、②の方ですよね。何となくヘルシーな感じがします。でも、よく考えたら①も②も同じことの言い方を変えてるだけですね。このような事態を専門用語で「フレーミング効果」と言いますが、この本はこうした行動経済学に関連した専門用語を、まんがで分かりやすく解説してくれます。

『司法の現場で働きたい！　弁護士・裁判官・検事』打越さく良　ほか

あらゆる資格で最も難易度の高い司法試験。この試験に合格した人が「弁護士」「裁判官」「検事」になれます。そしてこの３種類の法律家の中で唯一、犯罪事件の「捜査」に関われる仕事が検事ですが、この本に登場するある女性検事は捜査できることにスリリングな魅力を感じて、この仕事に決めたそうです。ほかにも弁護士や裁判官になった方の実体験が盛り沢山の１冊です。

『科学的に正しい英語勉強法』
メンタリスト DaiGo

×「繰り返し復習することで英語力がつく」
×「毎日コツコツ勉強すると英語力がつく」
×「楽しく学習し、分かった手ごたえを感じたい」

本書の筆者は、人の心をコントロールする「メンタリスト」を自称していますが、この本では科学的知見を織り交ぜながら、上記「×・・」に見られるように、独自の英語学習方法を披露しています。中には「**睡眠学習の効果的な利用方法**」など、英語に限らず、ほかの教科の勉強にも当てはまるものも少なくありません。お試しあれ。

『ホーキング、宇宙と人間を語る』
スティーヴン・ホーキング

この 3 月に亡くなった、宇宙論の代表的研究者です。追悼の意味も込めて、彼の晩年（2010）のこの本を購入いたしました。

この本は科学者だけでなく、多くの思想家や哲学者についても触れている点が、ホーキングの他の本と違うところです。晩年の彼は、哲学にも深い関心があったのですね。

少し引用します。「哲学は現代の科学の進歩、特に物理学の進歩についていくことができなくなっています。」（1 章）

『炎と怒り－トランプ政権の内幕』　マイケル・ウォルフ

アメリカのワシントンでは午前０時の発売後すぐに売り切れとなった、トランプ政権の暴露本です。

著者によれば、ドナルド・トランプとその「取り巻き」たちは、ヒラリーとの大統領選に勝つ気などさらさらなく、「勝った場合どうするか、を考えるのも無駄」とさえ思っていたようです。ところが選挙が終わると、まさかの勝利。一番驚いたのはもちろんトランプ自身でしたが、「大統領になった恐怖」にかられたトランプは、突如として「自分こそ大統領にふさわしい人物だ」と思い込むようになり・・

著者自身による決めゼリフを紹介します。**「この本で、トランプ政権は終わるだろう。」**

『ソードアート・オンライン　プログレッシブ　５』
川原　礫

仮想現実のゲームの世界での闘いを描いた、人気ラノベシリーズの最新作です。ふとしたことから、主人公のキリトとヒロインのアスナは同居生活を始めることになりましたが・・ファンは二人の関係性に注目しているみたいですよ。

今号のひとこと

E pur si muove.　　それでも動く。

ガリレオ・ガリレイ(1564-1642)

「え？『それでも地球は動く』なんじゃないの？！」と思ったあなた。そうなんです、原文のイタリア語では「地球は」どころか、主語自体が省略されているんです。これは主語を省略できるという日本語にも似たイタリア語の特徴を活かして、わざとガリレオが主語を言わなかったものとも推察できますね。だって「地球は動く」という「地動説」は、当時の教会の教えから見れば異端です。これを唱えたジョルダーノ・ブルーノが火あぶりの刑にあったことを、彼は良く知っていましたからね。